

[第10回学術集会公開シンポジウム：家族看護の実践知の探求]

家族生活力量からみた家族看護実践知

日本赤十字看護大学地域看護学

福島 道子

はじめに

筆者は1983年に発足した家族ケア研究会に所属し、地域看護における家族ケアを探求している。本稿は、家族ケア研究会が地域看護職がもっている実践知から創出した家族生活力量の概念と、家族生活力量を基盤として開発した家族アセスメントツールを紹介するものである。

1. 実践知と地域における家族看護

パトリシア・ベナーは、身体に根ざした知性¹⁾に意味を見い出し、熟達した実践者がもっているいわば体でつかんだ知識、語る事ができる以上の知識²⁾に着目してその重要性を指摘しており、筆者はこれを実践知として位置づけている。

この「実践知」を前提にして地域看護における家族支援を考えると、その相当部分が実践知によるのではないかと思われる。行政機関に所属する保健師や訪問看護ステーションに所属する訪問看護師は、家族と接点をもつ契機は個人の健康問題である。しかし、個人の健康問題解決のために対象の生活の場、すなわち家庭に入ると、いやおうなく家族とその生活が見える。家族成員間の人間関係、経済状態、ライフスタイル等が見え、健康問題をもつ個人の心身社会的状況が他の家族成員に影響し、他の家族成員の心身社会的状況が健康問題をもつ個人に影響していることも目の当たりにしている。優れた実践者や力のある実践者は、個人の健康問題を契機として家庭に入っても、上手にいつのまにか家族全体を援助対象としている。しかし、当の実践者に、家族のどうい

ところを見ているのかとか、なぜそのように適切な家族支援ができるのかと尋ねても、経験を積んだからできるとか、センスの問題だとか、本人さえも明確になっていないことが多い。

後述する「家族生活力量」は、このような、できていにもかかわらず説明が十分になされない実践知を理論化したものである。

2. 「家族生活力量」の研究過程

家族ケア研究会は、発足して20年経過している。この間の約10年間は、既存の家族理論等を実践現場で活用できるように具体化することを課題としていた。たとえば、マズローの欲求階層理論を家族という集団に適用できるのではないかという仮説を立て、実際の事例に適用し、その結果から実践現場への提案をした。このような提案のひとつに、家族をアセスメントする枠組みとして「家族の生活力量・問題対処力や条件³⁾」があった。これは、社会学者バージェスの社会学理論を基盤にして作成したものであった。しかし、アセスメント枠組みとしては抽象的であり、実践現場で使うためにはより具体化する必要があると考えた。そこで、われわれは「家族はシステムである。家族には自ら生活していく力があり、これを代行、補強、強化することが援助者の役割である」と確認した後、帰納的に、すなわち、地域の実践者が暗黙のうちにもつてる実践知から家族生活力量のアセスメント表を開発しようと考えた。

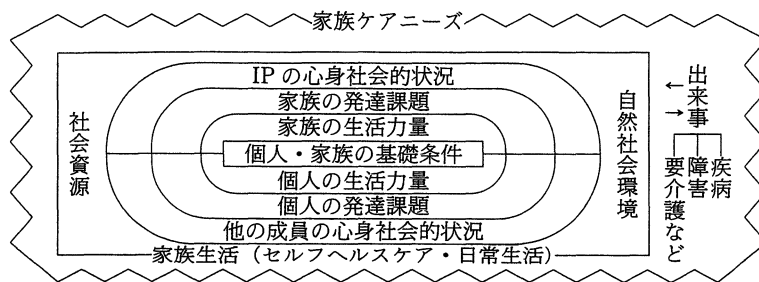
開発のための研究デザインの概要は、次の通りであった。

目的：地域看護実践において活用しうる家族生活力量のアセスメント指標を開発する。

表. 家族の健康問題に対する生活力量アセスメント指標

大項目	中項目		小項目 (具体的な課題・条件内容)	
	項目・条件	定義		
家族生活力量	家族のセルフヘルスケア力	a. 健康維持力	健康生活を営むうえで必要な家族の基本的保健行動力	情報収集力, 観察力, 判断力, 選択力, 実行力, 継続力
		b. 健康問題対処力	なんらかの健康問題が発生した場合, それを理解し対処しようとする家族の保健行動力	理解力, 情報収集, 判断力, 健康問題の受けとめ方, コンプライアンス, 家族内の問題共有力, 結束力
		c. 介護力または養育力	他者による身辺の世話を必要とする家族員が発生した場合, それを判断し補完する家族の保健行動力	意欲, 知識, 技術, 自由時間の獲得力, ケア対象者への愛着, ストレス対処力, 介護, 養育の方針
		d. 社会資源の活用能力	健康課題の解決, 改善および日常生活を営むうえで有用な家族資源を理解し, 活用しようとする家族の保健行動力	社会資源利用の態度 社会資源への接近力 社会資源知識の獲得力 人的ネットワークの拡大力
	家族の日常生活維持力	e. 家事運営力	日常生活を営むうえで必要な炊事掃除などの家事を運営する力	炊事, 買い物, 洗濯, 掃除の遂行力
		f. 役割再配分・補完力	役割変化の必要が生じた場合, それを理解し, 各機能を保持しようとする家族の柔軟な役割交代や相互に補完する力	役割分担力, 役割再配分力, 役割継続力
		g. 関係調整・統合力	家族員の自立, 自由を確保しながら, 家族の凝集性を高め, 柔軟に家族関係の調整を行い, 家族としてまとまろうとする力	親密性, 凝集性, コミュニケーション, キーパーソン, 家族成員の自立・自由
		h. 住環境調整力	安全・便利・快適な家屋やその周辺環境を整備する力	衛生性, 快適性, 安全性, 利便性
		i. 経済・家計管理力	生活の基盤となる収入を得て, 計画的に消費しようとする家族の経済運営力	収入源, 出納バランス, 消費パターン
	家族生活力量に影響する条件	j. ライフサイクル	家族の成立から解体までの段階的生活周期	ライフステージ, 発達課題, 家族の生活史
k. 社会資源		家族のニーズを充足するために利用している, または利用可能な制度, 集団や, 個人が有する知識・技能, 施設, 設備, 資金, 物品	活用している社会資源 活用可能な社会資源	
l. 自然・社会環境		家族を取り巻く自然・社会環境のうち健康問題と関係しやすい環境	家屋の特徴, 立地条件, 交通手段, 地域社会の人間関係・慣習・価値観	

1 家族の生活力量は各成員の生活力量と条件が家族の生活力量に関与して総合化されて構成される
 2 家族の生活力量は各成員の生活力量の単なる総和ではなく相互のダイナミクスを含んだ総合力である



IPとは Identified Patient の意味であり, 問題が顕在化している人あるいは問題が確認される人をさしている。

図. 地域看護における家族ケアニーズの構造

対象: 家族ケア研究会メンバーが, 援助対象または研究対象とし, 詳細な情報を把握している家族 115 例

方法: 1. 115 例の家族に関して家族生活力量の観

点から事例を記述し, ここから家族生活力量の要素を抽出する。

2. 類似した要素を類型化し, 指標を仮設定する。

3. 事例への適用, 文献照合によって, 指標を修正する.

4. 指標間の関係を検討し, 構造化する.

結果, 完成した家族の生活力量は, 表の通りである. アセスメント表は, 「大項目」「中項目」「小項目」で構成されている. 「大項目」は, 「家族生活力量」と「家族生活力量に影響する条件」で構成されている.

「家族生活力量に影響する条件」は, 家族をアセスメントしニーズを明確にするために必要な指標である. アセスメントするときは「中項目」を中心とし, 「中項目」の定義と「小項目」を手がかりとして情報収集する.

図は, 家族ケアニーズの発生について構造化したものである. 家族ケアニーズの発生構造は, 個人・家族の基礎条件, 生活力量, 発達課題, 心身社会的状況, 社会資源・自然社会環境の相互作用によって成立している生活に, 出来事としての疾病や障害や要介護が加わり, 家族ケアニーズが発生すると考えられた.

なお, 本研究の詳細は, 文献⁴⁾⁵⁾を参照されたい.

その後, 家族ケア研究会は, 家族生活力量のアセスメント指標を構成概念として, 「家族生活力量アセスメントスケール」⁶⁾を開発した. これは, 援助している家族について60項目チェックすることによって家族生活力量をとらえようとするものであり, さらに点数をレーダーチャートに表し, 視覚的に家族生活力量を見ることができるよう工夫している. さらに, 実践現場で遭遇する健康問題をもつ家族のアセスメントするためには, 家族生活力量のアセスメント指標のみならず, 問題そのものを分析する理論が必要であるとの認識から, 家族危機理論や家族システム論などを付加した援助記録用紙⁷⁾を開発した.

以上のいくつかのツールは, わが国の地域看護職の実践知を基盤にして開発したものであり, かつ, 実践現場に提案することを意図したものであり, それゆえ実践にとっては有益なツールであると考えられる.

おわりに

家族生活力量概念およびそれを基盤としたアセスメントツールは, 援助実践, 看護教育・研究に活用されつつある. 開発者にとっては大変喜ばしいことであり, 現場の諸条件によって修正したり, 各々のツールの限界を明らかにして修正するなど, さらに洗練させていくことを願っている.

また, 実践知は理論化されることによってまさに実践的理論となり汎用性をもっていく. この意味において, 研究者は, 暗黙のうちに蓄積された実践知を掘り起こし, 理論化していくことの責務があると考えられる.

引用文献

- 1) ベナー/ルーベル, 難波卓志訳: 現象学的人間論と看護, 医学書院, 48—52, 1999
- 2) 谷口好美: (パトリシア・ベナー, 黒田裕子編著), やさしく学ぶ看護理論, 165—180, 日総研出版, 1996
- 3) 島内 節, 他: 家族を単位とした分析視点と支援技術, 保健婦雑誌, 40 (12), 10—54, 1984
- 4) 福島道子, 他: 「家族の健康課題に対する生活力量アセスメント指標」の開発, 日本看護科学会誌, 17 (4): 29—36, 1997
- 5) 福島道子, 他: 家族生活力量の視点から把握した家族ケアニーズの内容と構造—保健婦の訪問事例を対象として, 日本地域看護学会第2回学術集会講演集, P. 66, 1999
- 6) 家族ケア研究会: 家族生活力量モデル—アセスメントスケールの活用法, 72—81, 医学書院, 2002
- 7) 前掲書, 29—35